

[横浜美術館]

平成28年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

展覧会については、横浜の立地、当館学芸員の専門性、当館コレクションなどの当館の特徴や強みを活かした多様な展覧会を展開し、特に35年ぶりの開催となったカサットの個展は専門家の評価を得ました。そして、コレクション展では教育普及の観点を導入した企画、企画展とあわせて全館写真展とするなど、新しい観点での発信を行いました。

また、教育普及について大きな進展がありました。企画展では、海外専門家や大学等と連携したシンポジウムを複数回実施しました。コレクション展では、演劇の手法を導入したプログラム、教師の方々と一緒につくりあげたコレクション鑑賞ガイド、またボランティアによる街歩きツアーなど、専門性を活かしつつオリジナリティある講座を複数開催しました。アウトリーチについては、若者自立支援組織で新たに開始した他、病院での実施も拡大し、高齢者施設でも大学と連携して香りを使った講座を新しく開発するなど、挑戦を続けています。

そして、運営面においては、特にファンドレイズで、企業協賛による華やかなレセプション開催のほか、美術情報センターのサイン改修など特徴ある企業連携を実現しました。

以上のように、展覧会、教育普及、運営の各部門で着実に進展した年となりました。

(2) 28年度の業務の方針及び達成目標の総括

①「経営」の総括

◇横浜トリエンナーレ

- ・4/1に国際グループを設置し、組織委員会と共に取り組む体制を整えました。
- ・国内外の国際展調査を行い、館内で専門的な知見を共有し、横浜トリエンナーレの企画・運営に活かしています。
- ・日本経済新聞2016回顧では2016年に開催された様々な国際展がとりあげられ、横浜トリエンナーレはベンチマークの一つとして挙げられており、また、多国籍の多様な領域の専門家を交えた構想会議がグローバル化への対応例として言及されるなど、美術専門家の注目を集めました。

◇海外への発信

- ・コレクション海外巡回については、メディアを介した営業方法を見直し、H29秋に企画案および営業パートナー策定・営業開始、H30.3会場契約と、H30冬巡回に向けて、準備を進めます。
- ・海外来館者の把握を4/23より開始し、この成果を、ビジターサービスの活動等に活かします。

◇広報

- ・首都圏・横浜向けに重点をおいた展覧会毎の広報に加え全館広報を展開し、Twitterフォロワー数は首都圏最大級を維持しています。
- ・ウェブサイトについては、3/30に「音と映像でたのしむ」ページの更新を行い、お客様に当館の最新状況を発信しています。

◇外部との連携

- ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、大学、企業等との連携による事業を、計画を大幅に超えて実施し、当館の活動を広げています。

② 事業の総括

◇企画展

- ・企画展合計の目標234,000人に対し、実績は232,462人(99.3%)となりました。未達成要因としては、Body展の目標設定やタイトルの付け方に課題があったと考えています。横浜の企業コレクションと当館コレクションを組合わせたゼロックス展、当館が企画を提案しメディアと共催したカサット展、主にアジアの中堅アーティストを紹介したBody展、当館コレクションと合わせて全館写真展として発信した篠山展と、当館の特徴や強みを活かした多様な展覧会を展開し、一般から専門家まで幅広い評価を得ました。また、カサット展の開催を通じて、海外の美術館との新たなネットワークづくりにもつながりました。Body展については、アジアの現代美術の展覧会は集客が難しい場合が多く、公立美術館において取組む館は少ない中、アジアの文化的ハブを目指す横浜市の美術館として意欲的に取組み、他館専門家からその積極性を評価する論評を得ました。
- ・若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標入場者数を超える来場者に観覧いただきました。

◇コレクション

- ・コレクション展については、コレクション展合計の目標240,700人に対し、実績は250,261人(104.0%)となりました。コレクション展では、二つの新たな試みを実施しました。まず、2期において、展示室の一部で、教育普及の観点による企画「描かれた横浜」を開催し、市の広報誌である季刊誌「横濱」と連携して特集ページを組み、当館コレクションを新たな視点で提示しました。そして、3期においては、写真展である篠山展とあわせて、写真で構成したコレクション展の単独チラシを作成し、当館写真コレクションの質の高さをアピールしました。
- ・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、メディアと連携し、H29.6企画案確定、H30.3会場契約、

H30 年度中の巡回に向けて準備を進めています。

- ・美術情報センターでは、展示室からの廊下と正面入りロサインボードの改修、展覧会と連動した特別展示の実施、視察の積極的受入、カウント方法の変更等により、利用人数が増えています。

◇教育プログラム

- ・企画展では、ゼロックス展とカサット展での当館教育普及の専門性を活かした各種ワークショップを行いました。ゼロックス展では、ゼロックス社のアプリを活用した音声ガイドを提供し、カサット展では、海外招聘を含む講演会やシンポジウムを通じた専門性の高い知見を紹介しただけでなく、ジュニアガイドの発行を通じて来場者の裾野を広げました。Body 展では、赤レンガ倉庫一号館と専門館連携に取り組むとともに、黄金町とともにフォーラムを共催し、大学や他館の美術関係者と議論を深めました。

- ・コレクション展では、三つの新しい試みを通じて、様々な方に当館コレクションへの理解を深めていただくよう努めました。第一に、ヨコハマトリエンナーレ 2014 以降継続してきた、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラムをコレクション展で初展開し、3 月にはその過程で生まれた戯曲を上演するなど、ユニークな鑑賞教育に発展させています。第二に、教員の方向けについては、レクチャーを企画展からコレクションに転換することで、当館コレクションに親しんでもらうと同時に、教員の方々と作成したコレクション作品を用いた中学校の鑑賞授業の授業案を行いました。特に後者は、他館からの視察など専門家の間でも注目を集め、2,3 月には実際に中学校での公開授業で活用されるなど、当館職員の専門性を発揮し、学校現場における鑑賞教育に発展させています。第三に、コレクション展 2 期に教育普及の観点で企画したセクション「描かれた横浜」では、外部講師によるレクチャーや街歩きツアーを展開し、こちらも他館の視察があるなど、ユニークな試みとして注目を集めました。

そして、横浜市芸術文化教育プラットフォームを通じた教員研修、ふれあいコンサート前後の観覧も拡大し、特別支援学校 2 校の鑑賞プログラムも継続しています。

- ・ボランティアによる鑑賞教育については、ゼロックス展でのトーク、ふれあいコンサート前後の観覧の継続実施に加え、上述のコレクション展 2 期での街歩きツアーを新たに実施したほか、3 月には当館を紹介する英語トークを試行し、来年度の横浜トリエンナーレに向けて準備をしています。

- ・子どものアトリエでは、8 月よりフリーゾーンを事前予約制とし、お客さまの利便性を高めています。
- ・市民のアトリエでは、展覧会と連携し、美術館ならではの講座を実施しています。ゼロックス展ではコラージュ、カサット展では油絵講座を実施しました。東京藝術大学大学院映像研究科などの著名な作家と連携しながら、Body 展関連で演出家によるパフォーマンスの講座、NAP 関連でアニメーションの講座など新分野の講座を開設しました。

◇市民協働・地域や市民に貢献する事業

- ・アウトリーチでは、従来の病院に加え、新たな病院と連携を開始しました。高齢者施設でのアウトリーチでは、実施回数を増やし、嗅覚など五感を刺激する内容に発展させています。11 月には、従来より館内でプログラムを行っていた市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチを初実施しました。

③ 運営管理の総括

◇ビジターサービス

- ・4 月より観光案内や障がいのある方の来館補助を行うビジターサービス・ボランティアを開始し、3 月には車椅子向けアクセスマップの制作をするなど、市民協働による来館者サービスを拡大しています。
- ・また、託児サービスの継続実施、首都圏や近隣就業者を狙った企画展毎の夜間開館の新規実施、10 月には CP0 への営業による BioJapan 特別鑑賞会実施を通じ、多様な来館者にお越しいただけるよう工夫しています。さらに、年始にはお正月装花、3 月には館パンフレットのデザイン統一など、心地よい空間を作り上げるよう努めています。

◇自主財源の獲得

- ・企業連携プログラム Heart to Art については 4 社と契約し、目標にはあと 1 社到達しませんでした。収入額は予算を上回ることができました。今後は、協力会との関係を活かした営業体制を検討したいと考えます。なお、Body 展でのレセプションや美術情報センターのサイン改修など新たな形態での企業連携を行い、他館からの視察が入るなど注目を集める活動となりました。

- ・来年度の新規契約 2 社等に向けて、10 社以上の企業に営業を行い、新たな企業連携の可能性を探りました。

◇収支

- ・ゼロックス展及び Body 展の来場者数目標未達成や村上展図録発行遅延による発送経費増等で厳しい状況となった収支を、協賛金や助成金獲得、篠山紀信展収益等で改善を図り収支均衡となりました。

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

[目指す成果／アウトカム]

主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備を行い、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、

- ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。
- ・新たに、新設する国際グループが中心となり、過去 2 回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。

[成果についての振り返り]

- ・4/1 に国際グループを設置し、組織委員会と共に取り組む体制を整えました。
- ・国内外の国際展調査を行い、館内で専門的な知見を共有し、横浜トリエンナーレの企画・運営に活かしています。
- ・日本経済新聞 2016 回顧では 2016 年に開催された様々な国際展がとりあげられ、横浜トリエンナーレはベンチマークの一つとして挙げられており、また、多国籍の多様な領域の専門家を交えた構想会議がグローバル化への対応例として言及されるなど、美術専門家の注目を集めました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●ヨコハマトリエンナーレ 2017 の体制・スケジュールを市に提案・協議	■平成 28 年 4 月	■実施 ・平成 28 年 4 月 国際グループ設置

(2) 海外への発信 [重点的な取組み]

[目指す成果／アウトカム]

当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、

- ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。
- ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。
- ・新たに新設する国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。

[成果についての振り返り]

- ・コレクション海外巡回については、メディアを介した営業方法を見直し、H29 秋に企画案および営業パートナー策定・営業開始、H30.3 会場契約と、H30 冬巡回に向けて、準備を進めます。

<p>・海外来館者の把握を4/23より開始し、この成果を、ビジターサービスの活動等に活かします。</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回 ●海外インターン受入 ●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成 ●日英での紀要の発行 ●外国人団体向けボランティア・トーク ●日英での展覧会プレスリリース作成 ●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付 ●海外VIPへの展覧会招待状送付 ●海外来館者の把握 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □H29, 30の巡回をめざし準備 □1回/年 □1回/展 □1回/年 □1回/年 □1回/展 □1回/展 □1回/展 □1回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29秋 企画案および営業パートナー決定 ・H29秋 営業開始、H30.3会場契約、H30冬巡回 <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/1-30, 6/1-3/31 1名受入れ <p>【達成】1回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記(篠山展は英文ハンドアウト配布) ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記 <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/21発行(サマリーを日英併記) <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/26 <p>【達成】1回/展</p> <p>【達成】1回/展</p> <p>【達成】1回/展</p> <p>【達成】1回/展(篠山展は発送せず、横浜トリエンナーレ告知を入れた年賀状を発送)</p> <p>【達成】1回以上/年(4/23以降の展覧会会期中実施)</p>

(3) 広報

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディアとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。 ・マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲットの明確化の推進を、引き続き実施します。 ・新たに、首都圏に向けた広報に力を入れます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトアクセス数については、目標にとどきませんでした。要因としては、2015年秋にお客様の利便性を考慮して階層の浅いサイトに改定したこと、また当年度のメディア展ウェブサイトが通常より階層の浅いものであったことです。今後は、データの蓄積と分析を行い、階層の浅いサイトに適した目標を設定します。 ・首都圏・横浜向けに重点をおいた展覧会毎の広報に加え全館広報を展開し、Twitterフォロワー数は首都圏最大級を維持しています。 ・ウェブサイトについては、3/30に「音と映像でたのしむ」ページの更新を行い、お客様に当館の最新状況を発信
--

しています。		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会および全館広報などの通常業務 ● 首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報 1回/展 ● ウェブを活用した全館広報 1回/年 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 露出件数 700 件/年 <input type="checkbox"/> ウェブサイトアクセス数 5,000,000 件/年 <input type="checkbox"/> メールマガジン登録数 500 人増/年 <input type="checkbox"/> Twitter フォロワー数 3,000 人増/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 実施</p> <p>【達成】 1 回/展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロックス:4 月割引を近隣企業等に配布(横浜)、5 月割引をアートフェア東京に配布(首都圏) ・カサット:5 月京王線渋谷駅ポスター、7 月三菱一号館美術館相互割引(首都圏)、6,8 月桜木町駅動く歩道横断幕(横浜) ・Body 特別割引配布:9 月近隣就業者(横浜)、さいたまトリエンナーレ(首都圏) ・篠山:12 月相鉄、市営地下鉄ドア横 B3 ポスター、横浜駅 B1 ポスター(横浜)、12 月彫刻の森美術館相互割引、原美術館相互配架(首都圏) <p>【達成】 1 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/30 「音と映像でたのしむ」更新 <p>【達成】 2,092 件/年</p> <p>【未達成】 4,710,615 件/年</p> <p>【達成】 742 人増/年</p> <p>【達成】 16,851 人増/年</p>

(4) 外部との連携

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市戦略との連携:創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・専門性を活かしたネットワークの強化:①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・新たに、美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、大学、企業等との連携による事業を、計画を大幅に超えて実施し、当館の活動を広げています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 2 回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 28 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/4 日テレドラマ完成試写会[横浜市連携]

<p>推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 4/29 日本フィル音楽創造ワークショップ[日本フィル連携] ・ 5/7 子どもプログラム[KAAT キッズプログラム 2016 『わかったさんのクッキー』 連携] ・ 5/13, 7/12 企画展レクチャー[女子美術大学・橘学園高等学校連携] ・ 7/1 美術情報センター視察[鶴見大学] ・ 8/22 カサット 特別鑑賞会[アートルック in 横浜赤レンガ倉庫×横浜平沼高校美術部] ・ 7/8, 12/2, 1/30 コレクション展 I 期, Body, NAP 映像アップ[城西国際大学連携] ・ 7/16-18 イメージフォーラム[イメージフォーラム連携] ・ 7/30, 8/5 HTA しんきんコンサート・エコ教室[横浜信用金庫連携] ・ 9/2-3 カサット 横浜美術館で音楽会 [みなとみらいホール・フランス月間連携] ・ 9/19-23, 9/30 HTA 美術情報センターサイン工事・Body 特別内覧会[寺田倉庫連携] ・ 11/5-6 インポート SUV&クロスオーバー2016[インポート SUV&クロスオーバーフェア 2016 連携] ・ 11/8-10 第 18 回図書館総合展への参加[有隣堂連携] ・ 11/17-18 第 56 回関東甲信越静地区造形教育研究大会[関東甲信越静地区造形教育・神奈川県造形教育協議会連携] ・ 11/27, 1/8 クラシックヨコハマ[横浜市連携] ・ 12/9-10 オートカラーアワード [JAFCA 連携] ・ 12/11 「横浜美術館学芸員に聞く アートの楽しみ方」[海老名市立中央図書館連携] ・ 2/15 情報・資料研究部第 46 会合[全国美術館会議連携] ・ 2/15-16 台北ノート[TPAM 連携] ・ 2/18 「美術館とコレクション」 第 8 回[青山ブックセンター連携] ・ 2/23 CP+レセプション[横浜市連携] ・ 2/24CP+での横浜美術館特別レクチャー [横浜市連携]
----------------------------------	--	---

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます』

(1) 企画展

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。 ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。 ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展合計の目標 234,000 人に対し、実績は 232,462 人 (99.3%) となりました。未達成要因としては、Body 展の目標設定やタイトルの付け方に課題があったと考えています。 ・横浜の企業コレクションと当館コレクションを組合わせたゼロックス展、当館が企画を提案しメディアと共催したカサット展、主にアジアの中堅アーティストを紹介した Body 展、当館コレクションと合わせて全館写真展として発信した篠山展と、当館の特徴や強みを活かした多様な展覧会を展開し、一般から専門家まで幅広い評価を得ました。また、カサット展の開催を通じて、海外の美術館との新たなネットワークづくりにもつながりました。Body 展については、アジアの現代美術の展覧会は集客が難しい場合が多く、公立美術館において取組む館は少ない中、アジアの文化的ハブを目指す横浜市美術館として意欲的に取組み、他館専門家からその積極性を評価する論評を得ました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●富士ゼロックス版画コレクション×横浜美術館 複製技術と美術家たち—ピカソからウォーホルまで【会期：4月23日-6月5日】</p> <p>富士ゼロックス所蔵の近現代版画作品と、当館所蔵の作品を合わせ、近・現代の美術家が複製技術を用いた意図を考察する展覧会。</p> <p>●メアリー・カサット展【会期：6月25日-9月11日】</p> <p>印象派の女性画家カサットの日本では35年ぶりの回顧展。印象派の作家との交流や日本美術からの影響も紹介する。</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□入場者数 22,000 人</p> <p>□入場者数 120,000 人</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】21,787 人</p> <p>【達成】123,972 人</p>

<p>●BODY/PLAY/POLITICS【会期：10月1日-12月14日】 2000年以降の現代美術における「身体」をテーマに、国内外の作家たちによる映像や写真、インスタレーションなどを紹介するグループ展。赤レンガ倉庫1号館と連携。</p>	<p>□入場者数 35,000人</p>	<p>【未達成】20,227人</p>
<p>●篠山紀信展 写真力【会期：1月4日-2月28日】 日本を代表する写真家篠山紀信の個展の巡回展。これまでに撮影した中から「写真力」のある作品を自ら厳選。</p>	<p>□入場者数 57,000人</p>	<p>【達成】66,476人</p>

(2) New Artist Picks

<p>[目指す成果／アウトカム] 有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取り組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取組むと同時に、展覧会后5年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。</p> <p>[成果についての振り返り] ・若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標入場者数を超える来場者に観覧いただきました。</p>		
<p>[取組内容] ●New Artist Picks</p>	<p>[達成指標] □開催 1回/年 □入場者数 1,500人 □展覧会后5年間の作家の活動を把握 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況] 【達成】1回/年 ・2/3-28 和田淳展@アートギャラリー1・カフェ 【達成】8,596人 【達成】1回/年 ・8月 様式定め活動把握</p>

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

<p>[目指す成果／アウトカム] 収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、</p> <p>・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市に提案、3か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。</p>

- ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。
- ・活用：①原則として年2～3回コレクション展開催（展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方なるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫）、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。

[成果についての振り返り]

・コレクションの形成

収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。

・コレクションの保存

・収蔵庫の状況について、現状の課題を市と共有し、新収蔵品のデータを登録して、目録として公開し、広く研究に貢献しました。

・集中的な庫内清掃を学芸員が実施し、庫内環境の保全に努めました。

・コレクションの活用

・コレクション展については、コレクション展合計の目標240,700人に対し、実績は250,261人（104.0%）となりました。コレクション展では、二つの新たな試みを実施しました。まず、2期において、展示室の一部で、教育普及の観点による企画「描かれた横浜」を開催し、市の広報誌である季刊誌「横濱」と連携して特集ページを組み、当館コレクションを新たな視点で提示しました。そして、3期においては、写真展である篠山展とあわせて、写真で構成したコレクション展の単独チラシを作成し、当館写真コレクションの質の高さをアピールしました。

・コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、メディアと連携し、H29.6企画案確定、H30.3会場契約、H30年度中の巡回に向けて準備を進めています。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●コレクションの形成、保存に関する通常業務</p> <p>●コレクションの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション展 ・1期【会期：4月23日-6月5日, 6月25日-9月11日】 メアリー・カサット展に合わせ、男性中心の画壇で活躍した女性アーティストたちに焦点を当てる。油彩画、日本画、版画、写真など多ジャンルにわたり、渡辺幽香から、辰野登恵子、松井冬子、小西真奈などまでを紹介。 ・2期【会期：10月1日-12月14日】 	<p>□入場者数 145,200人</p> <p>□入場者数 37,000人</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/17 内部検討委員会 ・11/30 収集委員会 ・11/30 前年度目録発行 <p>【達成】154,061人</p> <p>【未達成】26,243人</p>

<p>日] 企画展「BODY/PLAY/POLITICS」 と緩やかに連動した特集展示。 近・現代絵画を中心に、作品の テーマや形式的な特徴を、歴 史・文化的背景や価値観の時代 的な変化から読み解く。</p> <p>・3期【会期：1月4日-2月28 日] 篠山紀信展の開催に合わせ、日 本と西洋の肖像写真と風景写 真を中心に構成。</p> <p>・コレクションパッケージ展国内 巡回</p> <p>・コレクションの画像と解説をウ ェブ公開</p>	<p><input type="checkbox"/>入場者数 58,500人</p> <p><input type="checkbox"/>H29の巡回をめざし準 備</p> <p><input type="checkbox"/>10作品/年</p>	<p>【達成】69,957人</p> <p>【達成】実施</p> <p>・H29.6企画案確定予定</p> <p>【達成】10作品/年</p> <p>・8/29公開</p>
---	--	--

(2) 美術情報センター

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたつて、これらを集集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、引き続き実施します。 ・横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。 ・新たに、第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術情報センターでは、展示室からの廊下と正面入りロサインボードの改修、展覧会と連動した特別展示の実施、視察の積極的受入、カウント方法の変更等により、利用人数が増えています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務 ●普及のための事業 ●第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざした具体的な取組みを検討 	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>利用者数 17,000人/年</p> <p><input type="checkbox"/>1回/年</p> <p><input type="checkbox"/>平成28年10月 検討</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】30,521人/年</p> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/12-9/28 メアリー・カサット展連動企画 特別資料展示 ・10/1-3/22 Body・篠山連動企画 特別資料展示 <p>【達成】実施</p> <p>6/17以下決定し、H29事業計画に反映</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修中に所蔵映像資料デジタル化 ・H29 試行、H30 検証予定
--	--	---

(3) 調査・研究

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>あらゆる美術館活動の基礎としての調査・研究を実施するため、成果は事業に反映すると同時に、紀要などにまとめて社会に還元し、活動を強化します。なお、専門性を広く市民のために役立てるため、専門的活動の効果的な開示を、海外も視野にいれて実施します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 ・研究紀要では、紀要（サマリー）の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●紀要の発行(論文3本以上,日英併記,販売検討) [再掲:日英併記]</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・3/31発行</p>

◇政策目標『美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます』

(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>教育プログラムの強化に資する事業として、鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を果たすため、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たすため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織新設し、鑑賞、創作体験、子ども対象を連動させた独自のエデュケーションプログラム始動し、活動を強化します。 ・①ワークショップ、鑑賞会などコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化、②学校連携による鑑賞プログラムを開発、③主にコレクション展のための鑑賞サポートツールの開発を行い、活動を強化します。 ・視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。 ・展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。なお、第I期の様々なプログラムの試行を踏まえ、第II期には横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。 ・新たに、質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展では、ゼロックス展とカサット展での当館教育普及の専門性を活かした各種ワークショップを行いました。ゼロックス展では、ゼロックス社のアプリを活用した音声ガイドを提供し、カサット展では、海外招聘を含む講演会やシンポジウムを通じた専門性の高い知見を紹介しただけでなく、ジュニアガイドの発行を通じて来場者の裾野を広げました。Body展では、赤レンガ倉庫一号館と専門館連携に取り組むとともに、黄金町とともにフォーラムを共催し、大学や他館の美術関係者と議論を深めました。 ・コレクション展では、三つの新しい試みを通じて、様々な方に当館コレクションへの理解を深めていただくよう努

めました。第一に、ヨコハマトリエンナーレ 2014 以降継続してきた、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラムをコレクション展で初展開し、3 月にはその過程で生まれた戯曲を上演するなど、ユニークな鑑賞教育に発展させています。第二に、教員の方向けについては、レクチャーを企画展からコレクションに転換することで、当館コレクションに親しんでもらうと同時に、教員の方々と作成したコレクション作品を用いた中学校の鑑賞授業の授業案を行いました。特に後者は、他館からの視察など専門家の間でも注目を集め、2,3 月には実際に中学校での公開授業で活用されるなど、当館職員の専門性を発揮し、学校現場における鑑賞教育に発展させています。第三に、コレクション展 2 期に教育普及の観点で企画したセクション「描かれた横浜」では、外部講師によるレクチャーや街歩きツアーを展開し、こちらも他館の視察があるなど、ユニークな試みとして注目を集めました。

そして、横浜市芸術文化教育プラットフォームを通じた教員研修、ふれあいコンサート前後の観覧も拡大し、特別支援学校 2 校の鑑賞プログラムも継続しています。

- ・ボランティアによる鑑賞教育については、ゼロックス展でのトーク、ふれあいコンサート前後の観覧の継続実施に加え、上述のコレクション展 2 期での街歩きツアーを新たに実施したほか、3 月には当館を紹介する英語トークを試行し、来年度の横浜トリエンナーレに向けて準備をしています。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●企画展 ・講演会	□2 回/展	【達成】 2 回/展 ・ゼロックス：4/23 トークセッション, 5/3 アーティストトーク ・カサット：6/25 講演会, 7/31 シンポジウム ・Body：10/2 フォーラム 1 部・2 部[第 50 回アジア開発銀行年次総会横浜開催連携]
・ギャラリートーク	□2 回/展	【達成】 2 回以上/展 ・ゼロックス：5/14, 21, 28, 6/2 *6/2 は子ども向け ・カサット：7/8, 8/5, 9/2 ・Body：10/1 アーティストトーク 2 回 ・篠山：1/28, 2/11, 25
・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)	□1 回/年	【達成】 1 回/年 ・カサット：6/13 公開 【追加実績】 16 回 ・ゼロックス：音声ガイド, 5/5 子どものアトリエ親子講座, 5/21 アートクルーズ ・カサット：3/9 トークイベント, 7/13, 8/27 アートクルーズ, 7/24, 8/7, 21 市民のアトリエ版画デモンストレーション, 8/18NHK がんこちゃん親子講座 ・Body：10/26, 11/26 アートクルーズ, 10/28 ライブパフォーマンス[横浜音祭り 2016 連携]

<p>●コレクション展</p> <p>・美術館職員の専門性を活かした各種トーク</p>	<p>□8回/年</p>	<p>・篠山：2/4 アートクルーズ</p> <p>・NAP：2/4 アーティストトーク, 2/25NAP 上映会</p> <p>【達成】 19回/年</p> <p>・Ⅰ期：5/13, 27, 7/8, 22, 8/12, 26 ギャラリートーク, 6/5, 7/16 アーティストトーク</p> <p>・Ⅱ期：10/14, 28, 11/11, 25, 12/9 ギャラリートーク, 10/16 アーティストトーク</p> <p>・Ⅲ期：1/13, 27, 2/10, 24 ギャラリートーク, 2/24 アーティストトーク</p> <p>【追加実績】 3回</p> <p>・10/22, 29, 11/5 「描かれた横浜」 関連レクチャー</p>
<p>・創作体験を取入れた鑑賞プログラム</p>	<p>□1回/年</p>	<p>【達成】 1回/年</p> <p>・6/12, 26, 7/10, 24, 8/7, 11, 21, 9/4 中高生プログラム</p> <p>・8/21 こども探検隊</p> <p> *10/30, 11/6 報告冊子編集</p> <p> *3/29 中高生執筆の戯曲を俳優が上演</p>
<p>・特別支援学校向けプログラム</p> <p>・学校連携</p>	<p>□2回/年</p>	<p>【達成】 2回/年</p> <p>・12/5, 10</p>
<p>・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)</p>	<p>□1回/年</p>	<p>【達成】 1回/年</p> <p>・5/28, 6/25, 11/26, 1/21</p> <p>・2/24 ウェブサイト掲載</p> <p> *9/3, 10/22, 29, 11/12 グループワーク</p> <p> *2/14, 3/3 公開授業で活用</p>
<p>・アートティチャーズデー</p>	<p>□3回/年</p>	<p>【達成】 4回/年</p> <p>・5/28, 7/2, 11/26, 1/21</p> <p>【追加実績】 12回</p> <p>・学校連携</p> <p> ・7/25-27 横浜市芸術文化プラットフォームにおける教員研修</p> <p> ・8/20 中高生・夏休み美術相談デー</p> <p> ・8/31, 9/6 ふれあいコンサート参加校団体鑑賞の教員への事前レクチャー</p> <p> ・10/4, 5, 19, 21 ふれあいコンサート参加校団体鑑賞</p> <p> ・11/7 小学校向けコレクション展鑑賞会</p>

<p>● ボランティアによるトーク：個人 および外国人向け[再掲：外国人向け]</p>	<p>□ 各々1回以上/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12/5 子どものアトリエ学校プログラム（鑑賞） ・ 個人向け ・ 10/9, 16, 23 子どものアトリエ 美術ってなんじゃもんじゃ <p>【達成】 個人向け 2回/年、外国人向け 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人向け：ゼロックス 5/11 以降の水日各日 3回「ココがみどころ!」、コレクション展第2期 11/22, 27「描かれた横浜」ボランティアによる街歩き ・ 外国人向け：3/26 <p>【追加実績】 2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団体向け：9/7, 9 ふれあいコンサート参加校団体鑑賞：ヨコビ探検隊美術館探検ツアー
---	-------------------	--

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアトリエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を組込み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催 ・ 個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動 ・ 市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携 ・ 新たに、第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものアトリエでは、8月よりフリーゾーンを事前予約制とし、お客さまの利便性を高めています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務 ● 第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 利用者数 25,000人/年 ■ 平成28年10月 検討 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 25,009人/年（一部再掲：教師のためのワークショップ）</p> <p>【達成】 実施</p> <p>6/17 以下決定し、H29 事業計画に反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のためのプログラム 学校のためのプログラムと教師・保育士研修のバランスを見直し、より高い波及効果を狙う。 ・ 個人講座 アーティストや外部専門文化機関と連携し、美術館のアトリエとしての独自性を発揮する

(3) 教育プログラム：市民のアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の創作活動を支援する事業の実施 ・ 市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民のアトリエでは、展覧会と連携し、美術館ならではの講座を実施しています。ゼロックス展ではコラージュ、カサット展では油絵講座を 実施しました。東京藝術大学大学院映像研究科などの著名な作家と連携しながら、Body 展関連で演出家によるパフォーマンスの講座、NAP 関連でアニメーションの講座など新分野の講座を開設しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務 ●著名アーティスト連携による新分野講座 ●東京藝術大学映像科連携講座 ●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □利用者数 5,500 人/年 □2 講座/年 □1 講座/年 □3 回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】6,328 人 /年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境：5-6 月 初夏の香り ・ 展覧会：5 月コラージュ (ゼロックス), 7 月油絵 (カサット), 10 月テキスタイル (コレクション展), 12 月演劇 (Body), 2 月映像 (NAP) <p>【達成】2 講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月演劇 ・ 2 月映像 <p>【達成】1 講座/年 (再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 月映像 <p>【達成】3 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/26-27, 11/10, 25, 29, 12/19

(4) 市民協働：ボランティア等

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化 (コレクションに関する教育普及)、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。 ・ コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。 ・ ビジターサービスにおける市民および NPO 法人との協働を強化します。 ・ 新たに、市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各分野で目標を上回るボランティアの方にご参加いただき、市民の力を活用しています。
--

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どものアトリエボランティア ●美術情報センターボランティア ●鑑賞ボランティア ●ビジターサービス <ul style="list-style-type: none"> ・横浜シティガイド協会等と連携した活動 ・外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進検討 ●「原三溪市民研究会」等と共同研究会実施 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>20人/年 <input type="checkbox"/>5人/年 <input type="checkbox"/>25人/年 <input type="checkbox"/>2回/年 <input type="checkbox"/>10人/年 <input type="checkbox"/>1回/月 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】4/10-3/19 36人</p> <p>【達成】1/30 9人/年</p> <p>【達成】H28.3-H30.3 65人</p> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/19-21, 2/3-5 託児サービス[NPOはぐっと連携](再掲) <p>【達成】4/1-3/31 14人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/21, 24 研修(一般むけ接遇向上と障がい者対応) ・3/17 研修(障がい者対応と外国人対応) <p>【達成】1回/月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-3月(5, 11月除く) 研究会 ・5/14-15 奈良スタディツアー ・11/12 シンポジウム
--	---	--

(5) 市民協働：コレクション・フレンズ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりを実現するため、収蔵作品の保全、展示のための資金をサポートする市民を募る「横浜美術館コレクション・フレンズ」を継続発展させ、強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレンズ参加者数は確実に徐々に増えており、当館の理解者、支援者が広がっています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者数の拡大 ●メンバーシップの多様化とプロモーション策検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>180口 ■平成28年4月 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】196口</p> <p>【達成】実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 上位階層メンバーシップ開始(特典：企画展内覧会・図録進呈) ・12月 次年度プロモーション(早期申込キャンペーン・ご紹介キャンペーン)

(6) 市民協働：各種社会貢献事業

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、各種社会貢献事業を実施し、高齢者など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市、学校、関連機関、NPO 法人、市民との協働を充実させ、強化します。 ・美術館におけるエデュケーション事業の「美術館アクセス・鑑賞サポート事業」「学校教育連携事業」「環境啓発事業」を実施し、強化します。 		
---	--	--

- ・障がい者向け、学校向け、環境等の講座については、「教育プログラム」として実施し、「市民協働：各種社会貢献事業」においては、美術館に来館できない方に向けたアウトリーチを強化するとともに、美術に関わる人材を育成する人材育成事業を中心に行います。

[成果についての振り返り]

- ・アウトリーチでは、従来の病院に加え、新たな病院と連携を開始しました。高齢者施設でのアウトリーチでは、実施回数を増やし、嗅覚など五感を刺激する内容に発展させています。11月には、従来より館内でプログラムを行っていた市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチを初実施しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●アウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院等 ・福祉施設 ・高齢者施設 	<p>□2回/年</p> <p>□1回/年</p> <p>□1回/年</p>	<p>【達成】 2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/6 HTA 神奈川県子ども医療センター ・3/8 横浜医療福祉センター港南 <p>【達成】 3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/21 K2 インターナショナル <p>※5/31, 2/1 当館内ワークショップ実施</p> <p>【達成】 2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/20, 1/31 戸部ハマノ園[横浜国立大学連携] <p>※前段として 5/18, 1/17 横浜国立大学と当館で研修</p> <p>【追加実績】 2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/13, 27 HTA 幼稚園アウトリーチ
<p>●人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館実習 ・子どものアトリエ インターンシップ ・教師のためのワークショップ 	<p>□1回/年</p> <p>□5名/年</p> <p>□2回/年</p>	<p>【達成】 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/18-23 <p>【達成】 32名/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/11-3/31 10名/年 ・7/30-24 22名/年[城西国際大学] <p>【追加実績】 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/26-翌 1/31 教育プロジェクトインターン 3名 <p>【達成】 2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/23-24, 3/25-26 <p>【追加実績】 12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ：5/27, 6/25, 7/17-18, 20, 26-27, 12/3 ・教育プロジェクトチーム：4/27 2回, 5/11, 13, 8/19, 2/22

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●四つの基本方針(*)に従った来館者サービス業務</p> <p>*1) 顧客サービス員の質向上</p> <p>2) 顧客サービス員および市民協働の特性を活かし、より多様な来館者へのきめ細やかな対応実現</p> <p>3) 多言語で、高齢者等にも見やすいパンフレット等</p> <p>4) グランドギャラリーでの季節感のあるおもてなし、プロモーション</p> <p>●第Ⅲ期に向け、さらなるお客様の高い満足度をめざした具体的な取組みを検討</p>	<p>□展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点 4.00 以上</p> <p>□展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点 4.30 以上</p>	<p>【達成】実施</p> <p>1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加</p> <p>2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族：8/19-21, 2/3-5 託児サービス ・障がい者：3/25 車椅子向けアクセスマップ ・団体：26 団体に事前レクチャー提供 ・観光客等：10/13 Bio Japan 特別鑑賞会 ・近隣就業者： <ul style="list-style-type: none"> ・マークイズ 4/12, 5/18, 6/14, 7/12, 8/9, 9/13, 10/11, 11/8, 12/13, 1/10, 2/15, 3/15 ・MMCC 5/27, 7/20, 11/26, 2/24 ・かもめスクール 5/27, 6/3 ・夜間開館 5/27, 9/2, 10/28, 2/24 ・街コン 4/30, 7/2, 10/8 <p>3) パンフレット等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 館パンフレットのデザイン統一 <p>4) 植物、ソファ設置開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/9-1/29 カフェイルミネーション ・12/27-1/4 門松 ・1/4-8 お正月装花 <p>【達成】実施</p> <p>1/6 以下決定し、中期計画に反映予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修中のサイン・パンフレット・ソファ等更新 <p>【達成】4.08</p> <p>【達成】4.45</p>

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●ショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションを活用したオリジ 	<p>□1 商品/年</p>	<p>【達成】41 商品/年</p>

<p>ナル商品</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展関連商品コーナー ●カフェ コレクションを活用したオリジナルメニュー 企画展関連メニュー 	<p>□1回/企画展</p> <p>□1商品/年</p> <p>□1商品/企画展</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1/31 コレクション写真葉書制作：新作41作品、増刷14作品 【達成】1回/企画展 【達成】1商品/年 10月 【達成】1商品以上/企画展 ゼロックス：2種 カサット：2種 Body：1種 篠山：1種
--	--	---

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大規模改修 ●日々の適正な施設管理 ●災害対応 <ul style="list-style-type: none"> マニュアルの最新化と共有 ●訓練 ●開館30周年事業を検討する。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大規模改修の実施にむけ市と協働 □安全管理事故 0件/年 □1回/年 □2回/年 ■平成28年10月 案策定 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】実施 1/17 市と協議 【達成】0件/年 【達成】2回/年 4/1, 9/1 【達成】2回/年 10/5, 2/27 【達成】実施 6/17 以下決定し、中期計画に反映予定 実施年のH31に向け、体制・事業・財源の確定
--	---	--

(2) 経営基盤の強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンドレイジング 平成26年度に始動した法人協賛制度支援者拡大 企業との関係構築にむけた継続的な営業活動 第Ⅲ期にむけた、新たなファンドレイズを検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □2社増/年 □10社/年 ■平成28年10月 検討 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【未達成】1社増/年（目標5社、実績4社） Heart to Art（企業向け芸術支援プログラム） 企業協賛金は予算より多く収入 【達成】11社/年 【達成】実施 6/30 以下決定し、H29事業計画に反映 H29 寄付または支援付グッズ制作 H30 展覧会協賛獲得に向けて全館的に取組める体制作り
---	--	---

		【追加実績】 1回 ・7/7 カサット展特別鑑賞会[大和証券連携]
--	--	---

(3) 人材強化

【取組内容】 ●国際グループの新配置 ●学芸員、エドューケーター育成を再構築	【達成指標】 ■平成 28 年 4 月 ■学芸員、エドューケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	【実施内容と達成状況】 【達成】 実施 【達成】 実施 ・財団スケジュールに従い実施 ・10/19-11/2 専門職員担当リーダー以上館長個別面接
---	--	--

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

【取組内容】 ●市の政策と事業の相互連携 ●進捗状況報告 ●外部意見の取入れ ・外部有識者を交えた教育普及企画運営会議 ●年報発行	【達成指標】 <input type="checkbox"/> 政策経営協議会 4回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年	【実施内容と達成状況】 【達成】 4回/年 ・5/17, 7/5, 11/8, 1/17 ※8/3, 10/26, 28, 11/26, 2/17 外部評価委員の視察対応 【達成】 1回/年 (11/8 半期振り返り報告) 【達成】 1回/年 (2/27, 3/4 実施) 【達成】 1回/年 (6/30 発行)
---	---	---

8 人員配置

【取組内容】 過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	【達成指標】 <input type="checkbox"/> 計 46人 ・館長 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 4人 ・担当グループ長 2人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 29人	【実施内容と達成状況】 <input type="checkbox"/> 計 47人 ・館長 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 4人 ・担当グループ長 2人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 30人
--	--	---

9 留意事項

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 許認可及び届出等 2) 施設の目的外使用 3) 人権の尊重 4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口を設置し対応 □個人情報保護研修 1 回/年 ■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応 ■横浜市や関連機関との連絡緊密化 ■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 【達成】実施 【達成】実施 ・財団にて設置済 【達成】1回以上/年 ・5/20, 8/2, 2/3 新配属・新採用者向け ・2/3, 4, 6, 7, 10, 14, 17 全職員向け 【達成】実施 【達成】実施 【達成】実施
--	--	--

平成28年度「横浜美術館」収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位:円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	759,971,000		759,971,000	759,971,000	0	
利用料金収入	59,234,000		59,234,000	67,595,735	△ 8,361,735	コレクション展観覧料収入を含む
自主事業収入	221,304,000		221,304,000	218,792,602	2,511,398	
雑入	65,014,000	0	65,014,000	80,068,798	△ 15,054,798	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	684,000		684,000	890,873	△ 206,873	
駐車場利用料収入	0		0	0	0	
その他(店舗、喫茶、寄付金)	64,330,000		64,330,000	79,177,925	△ 14,847,925	財団繰越金補てん8,127,409円含む
収入合計	1,105,523,000	0	1,105,523,000	1,126,428,135	△ 20,905,135	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	352,377,000	0	352,377,000	354,032,928	△ 1,655,928	
給与・賞金	276,273,000		276,273,000	284,775,815	△ 8,502,815	
社会保険料	44,920,000		44,920,000	42,581,298	2,338,702	
通勤手当	6,736,000		6,736,000	5,534,636	1,201,364	
健康診断費	248,000		248,000	204,364	43,636	
勤労者福祉共済掛金	264,000		264,000	243,000	21,000	
退職給付引当金繰入額	23,936,000		23,936,000	20,693,815	3,242,185	
事務費	9,165,000	0	9,165,000	23,040,075	△ 13,875,075	
旅費	196,000		196,000	379,518	△ 183,518	
消耗品費	1,356,000		1,356,000	1,176,479	179,521	
会議滞在費	0		0	0	0	
印刷製本費	714,000		714,000	622,081	91,919	
通信費	2,157,000		2,157,000	3,083,533	△ 926,533	財団繰越金補てん対象Wi-Fi敷設工事を含む
使用料及び賃借料	1,469,000	0	1,469,000	1,483,840	△ 14,840	
横浜市への支払分	149,000		149,000	160,704	△ 11,704	
その他	1,320,000		1,320,000	1,323,136	△ 3,136	
備品購入費	100,000		100,000	13,343,832	△ 13,243,832	財団繰越金補てん対象備品を含む
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	145,000		145,000	185,074	△ 40,074	
職員等研修費	50,000		50,000	0	50,000	
振込手数料	339,000		339,000	506,724	△ 167,724	
リース料	0		0	0	0	
手数料	1,727,000		1,727,000	1,351,930	375,070	
地域協力費	912,000		912,000	907,064	4,936	
事業費	351,026,000	0	351,026,000	354,745,335	△ 3,719,335	
自主事業費	351,026,000		351,026,000	354,745,335	△ 3,719,335	コレクション展支出含む
管理費	214,525,000	0	214,525,000	207,645,629	6,879,371	
光熱水費	84,681,000	0	84,681,000	70,364,053	14,316,947	
電気料金	80,284,000		80,284,000	66,225,789	14,058,211	
ガス料金	50,000		50,000	45,557	4,443	
水道料金	4,347,000		4,347,000	4,092,707	254,293	
清掃費	26,611,000		26,611,000	27,029,380	△ 418,380	
修繕費	4,492,000		4,492,000	6,843,925	△ 2,351,925	
機械警備費	6,334,000		6,334,000	6,344,544	△ 10,544	
設備保全費	92,407,000	0	92,407,000	97,063,727	△ 4,656,727	
空調衛生設備保守	10,854,000		10,854,000	10,886,384	△ 32,384	
消防設備保守	1,890,000		1,890,000	1,926,640	△ 36,640	
電気設備保守	980,000		980,000	977,400	2,600	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	78,683,000		78,683,000	83,273,303	△ 4,590,303	
共益費	0		0	0	0	
公租公課	30,269,000	0	30,269,000	30,044,847	224,153	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	28,961,000		28,961,000	30,015,000	△ 1,054,000	
印紙税	0		0	14,000	△ 14,000	
その他(法人税)	1,308,000		1,308,000	15,847	1,292,153	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	148,161,000	0	148,161,000	156,919,321	△ 8,758,321	
本部分	72,801,000		72,801,000	72,801,000	0	
当該施設分	75,360,000		75,360,000	84,118,321	△ 8,758,321	ミュージアムショップ運営費、基幹ネットワーク保守・整備費、施設貸出経費他
ニーズ対応費	0		0	0	0	
支出合計	1,105,523,000	0	1,105,523,000	1,126,428,135	△ 20,905,135	
差引	0	0	0	0	0	